

令和 3 年 5 月 20 日現在

機関番号：13901

研究種目：若手研究(A)

研究期間：2017～2020

課題番号：17H04775

研究課題名（和文）F.J.ビーバー資料群の救出：20世紀初頭エチオピア無文字社会の歴史解明にむけて

研究課題名（英文）Save the collections of Friedrich Julius Bieber: to clarify the Ethiopian history among people who have no letters in the early twentieth century

研究代表者

吉田 早悠里 (Yoshida, Sayuri)

名古屋大学・人文学研究科・准教授

研究者番号：20726773

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 9,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、エチオピア南西部カファ地方の民族学的研究の第一人者であるF.J.ビーバーが残した資料群を学術研究に利用するための基盤を整えることを目的とし、F.J.ビーバーの人物詳細の解明と、資料群の整理、デジタル化、目録作成を実施し、複数の場所に分散しているF.J.ビーバー資料群の全貌解明に取り組んだ。特に、資料の内容と詳細が明らかにならなかったヒーツィンク区博物館所蔵資料と、K.ビーバー個人蔵資料の資料整理を行い、それらを学術研究に活用するための素地を整えた。これにより、F.J.ビーバーの資料群を後世に継承し、広く世の中に資するものとして活用していくための基盤を形成した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

F.J.ビーバーの資料群は、エチオピア研究、歴史学、文化人類学、国際関係学など、さまざまな学問分野にて基礎資料としての価値を有する資料群であり、なかでもエチオピアの地方史／国家形成史、ならびにアフリカの角地域の歴史解明に大きく貢献するものである。本研究は、F.J.ビーバー資料群の全体像を明らかにしたことに加えて、エチオピア訪問時の絵葉書や日記を書籍として刊行したことにより、同資料群を広く学術研究に活用するための素地を形成した点で大きな学術的意義を有している。

研究成果の概要（英文）：This project aims to establish a firm foundation for the inheritance and utilization of the collection of Friedrich Julius Bieber, who conducted ethnological research in the Kafa region of southwestern Ethiopia. This research project focused on the elucidation, organization of materials, digitization, and cataloging of the whole of F. J. Bieber collections spread across multiple locations: the Weltmuseum Wien, Austrian National Library, and District Museum of Hietzing. Particularly, the collections held by the District Museum of Hietzing and by K. Bieber were organized. Thus, the basis for utilizing them for academic research was prepared. The principal investigator published books about postcards and diaries of F. J. Bieber's visit to Ethiopia. Accordingly, this research project forms the basis for passing on the collection of F. J. Bieber to future generations and utilizing them widely as a contribution to the world.

研究分野：文化人類学

キーワード：アーカイヴズ 史料 アフリカ史 エチオピア F.J.ビーバー

## 1. 研究開始当初の背景

エチオピア南西部カファ地方には、1897年までカファ王国が繁栄していた。カファ王国は、アラビア半島との紅海交易の重要な産品である奴隷、コーヒー、麝香などの供給地として繁栄し、18世紀にはエチオピア高地において最も強大な力を持つ王国であった(Lange 1982 *History of the Southern Gonga*)。しかし、カファ王国がエチオピア帝国に征服・編入されると、豊富な自然資源や人的資源を有した同地は、エチオピア帝国によって搾取の対象となった。このようなカファ地方の歴史を解明することは、エチオピアの地方史/国家形成史のみならず、アフリカの角地域・中東地域一帯の歴史を紐解くことである。

従来、エチオピアにおける歴史研究は、文字資料が残されているエチオピア北部およびエチオピア帝国の歴史の解明に集中し、19世紀後半にエチオピア帝国に征服・編入された南西部の歴史研究は著しく立ち遅れてきた。また、カファ語は文字を持たないため文字資料がないこと、口頭伝承やかつての歴史を知る年長者の多くが既に他界していることなどから、20世紀初頭までのカファ社会の様相を現地調査から解明することは、ほぼ不可能になっている。こうしたなか、20世紀初頭までのカファ地方を知る手立ては、カファ研究の第一人者であるフリードリッヒ・ユリウス・ビーバー(以降、F.J.ビーバー)の著作に限定されていた(e.g. Bieber 1920 *Kaffa*)。

F.J.ビーバーは、オーストリア＝ハンガリー帝国の公使節団の一員として、1904年、1905年、1909年にエチオピアを訪れた。なかでも1905年には、当時、エチオピア帝国に征服されて間もないカファ地方を訪問、滞在し、カファ地方に暮らす人々の生活や文化、歴史に関する多くの記述を遺し、カファ研究の基本的枠組みの形成に大きな貢献を果たした。

2014年、研究代表者はF.J.ビーバーが遺した資料群がオーストリアに所在する博物館・図書館に分散して所蔵されているとともに、F.J.ビーバーの唯一の子孫であるK.ビーバーの個人蔵となっていることを知った。そこで、オーストリアにてF.J.ビーバーの資料群を確認したところ、カファ地方には現存していない20世紀初頭の民族学的資料、当時の写真、未公刊の草稿、日記、書簡、家族に宛てた絵葉書、家族・親族らのプライベート資料等が現存していることが判明した。そこで、研究代表者は、F.J.ビーバーの資料群を整理し、基礎資料として活用することで、空白になっているカファ地方の歴史を解明できるのではないかと考えた。

## 2. 研究の目的

本研究の第一義的な目的は、20世紀初頭のエチオピア南西部カファ地方の歴史を、カファ地方の民族学的研究の第一人者F.J.ビーバーが遺した民族学的資料、写真、未公刊の草稿、日記、手記をはじめとした資料群から解明することである。F.J.ビーバーが遺した資料群は、カファ地方およびエチオピアに関するさまざまな情報を含むものであるが、資料の詳細は解明されないまま消失の危機にある。本研究課題では、第一義的目的を達成するための基礎研究として、F.J.ビーバーの人物詳細の解明と、文書資料の整理・目録作成を行い、F.J.ビーバー資料群を学術研究に利用するための基盤を整える。

## 3. 研究の方法

F.J.ビーバーの資料群は、オーストリア国立図書館、世界博物館、ヒーツィンク区博物館の所蔵資料、およびF.J.ビーバーの孫K.ビーバー氏の個人蔵資料となっている。本研究では、このうち、オーストリア国立図書館が所蔵する文書資料、ヒーツィンク区博物館が所蔵する民族学的資料、ならびにK.ビーバー氏の個人蔵資料を対象とする。そして、具体的には以下の方法で研究を進める。

### (I) F.J.ビーバーの人物詳細解明

F.J.ビーバーの生い立ち、家族・親族関係、交友関係、エチオピアへの渡航経緯、帰国後の活動などの詳細を明らかにする。

### (II) 資料整理モデルの構築

F.J.ビーバーの文書資料の整理にあたって、F.J.ビーバーの文書資料を所蔵する国立図書館・文書研究員、フロベニウス研究所・研究員の協力のもと、文書資料の資料整理モデルを構築するとともに、アーカイヴズ化の手法を習得する。

### (III) F.J.ビーバーの文書資料の整理・デジタル化・目録作成

F.J.ビーバー資料群の文書資料を分類、整理する。その後、資料の長期的保存を目的として、一点一点をスキャンしてデジタル化する。随時、それぞれの資料の翻刻に取り組み、内容の把握を進める。なお、オーストリア国立図書館が所蔵するF.J.ビーバーの文書資料については、同図書館の資料デジタル化サービスを利用して全資料をデジタル化する。

### (IV) 民族学的資料の整理・目録作成

ヒーツィンク区博物館所蔵の民族学的資料を整理し、それぞれの資料の詳細を記した目録を作成する。

### (V) K.ビーバー個人蔵資料の体系化・整理・デジタル化

K.ビーバー個人蔵となっている文書資料を、資料整理モデルに基づいて、属性ごとに分類し、記述年月日が判明しているものは、全て時系列に並べて体系的に整理する。その後、それぞれの文書資料のデジタル化を進める。

#### 4. 研究成果

本研究課題では、4年間の研究期間を通じて、以下の研究成果を得ることができた。

##### (1) F.J.ビーバー資料群のアーカイヴズ化

オーストリアで、下記の作業に取り組んだ。

###### (a) オーストリア国立図書館所蔵・文書資料の整理・デジタル化・翻刻

オーストリア国立図書館が所蔵する F.J.ビーバーの文書資料の悉皆調査を実施した。その後、同館所蔵の F.J.ビーバー資料 35 点の全資料のデジタル化を行った。これらの文書資料のうち、F.J.ビーバーによる 1904 年、1905 年、1909 年の 3 回のエチオピア訪問時に書かれた日記について、筆記体からブロック体への翻刻を行った。この日記は、F.J.ビーバーのエチオピア訪問の全貌解明にむけた基礎資料として大きな価値を有していることから、『Reisen nach Äthiopien: Tagebücher 1904, 1905, 1909』と題して編集し、その全文を 2021 年度に出版した。

###### (b) ヒーツィンク区博物館所蔵・民族学的資料の悉皆調査・整理

ヒーツィンク区博物館の民族学的資料について全 328 点の資料整理、詳細解明を実施し、完了した。

###### (c) K.ビーバー個人蔵資料の整理・デジタル化・翻刻

K.ビーバー氏の協力のもと、同氏の個人蔵資料の整理を実施した。そして、同氏が所有する F.J.ビーバーの絵葉書と、日記 (1896 年 ~ 1909 年) のデジタル化を完了した。また、絵葉書については、筆記体からブロック体への翻刻、およびドイツ語から英語への翻訳を完了した。その後、絵葉書の両面画像と、ドイツ語テキストの翻刻文と英語訳を掲載した『Greetings from the Austrian-Hungarian Monarchy, the Ethiopian Empire and Beyond: The Picture Postcards of Friedrich Julius Bieber (1873-1924) / Grüße aus der Österreichisch-Ungarischen Monarchie, dem Kaiserreich Äthiopien und Anderswo: Die Ansichtskarten von Friedrich Julius Bieber (1873-1924)』としてまとめ、2021 年度に出版した。

以上から、複数の場所に分散している F.J.ビーバー資料群の全貌を解明することができた。これにより、F.J.ビーバーの資料群を後世に継承し、学術研究の進展と深化のみならず、広く世の中に資するものとして活用していくための素地を整えることができた。

##### (2) 研究の発展：デジタル・アーカイヴズ化への展開

本研究の実施過程で、研究代表者が資料整理とデジタル化を完了した K.ビーバー個人蔵資料について、画像データとメタデータを含むデジタルデータをインターネット上で国際的に公開・共有し、諸外国の研究者が学術研究に利用できるようにするための方途を模索した。これについて、オーストリア科学アカデミー・デジタル人文学センターの研究員に相談し、国際共同研究プロジェクトを立ち上げた。このプロジェクトは、国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(A))「F.J.ビーバー資料群の共有・保存・利活用に向けたデジタル・アーカイヴズ構築」(2019 年度 ~ 2021 年度)に発展し、F.J.ビーバーのデジタル・アーカイヴズ化へと展開させることができた。

##### (3) 国際的な研究成果の発信と研究交流の進展

本研究課題では、研究成果を国内・国際学会等で積極的に発信してきた。2017 年 6 月 2 日には、阿部泰郎(名古屋大学)、吉田早悠里(南山大学)、オーストリア科学アカデミー・アジア文化・思想史研究所の主催で国際ワークショップ「Archiving Viennese resources on the history of Ethiopian peoples」を開催した。また、2018 年 6 月 18 日には、オーストリア・エチオピア協会主催の講演会で「Friedrich Julius Bieber and the Kafa in Southwest Ethiopia」と題した一般講演を行った。講演の後は、約 30 人の参加者を迎えてヒーツィンク区博物館 3 階に展示されている F.J.ビーバー資料群の解説を行うなど、一般市民への研究成果の還元に努めた。2018 年 10 月 2 日には、第 20 回国際エチオピア学会にて、「Archives and Collections for/in Ethiopian Studies」と題したパネルをフロベニウス研究所の S.トゥバウヴィレと共同で主催し、エチオピアに関する文書・写真・美術資料など、さまざまな資料群を国際的に共有・利活用・運用する方法について議論した。さらに、2019 年 6 月 17 日には、オーストリア科学アカデミー・デジタル人文学センターを主催として、国際ワークショップ「Anthropology in digital research ecosystem: the needs of anthropologists for data management and digital archiving」を開催し、研究発表を行った。デジタル人文学に関しては、さまざまなディシプリンで行われてきたが、文化人類学においては未だ議論が乏しい。こうしたなかで、デジタル人文学における文化人類学の潜在性と可能性について議論した。

このほか、英語での論文発表のほか、F.J.ビーバーの絵葉書(独語・英語)と日記(独語)に関する書籍を 2 冊出版するなど、成果を国際的に発信することができた。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 Yoshida Sayuri	4. 巻 135
2. 論文標題 The Collections of F. J. Bieber and the Kafa Culture: Connecting Anthropological and Archival Research	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 African Research and Documentation	6. 最初と最後の頁 25-39
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Thubauville, Sophia & Yoshida Sayuri	4. 巻 135
2. 論文標題 Introduction to the Special Issue “Archives and Collections for/in Ethiopian Studies”	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 African Research and Documentation	6. 最初と最後の頁 3-7
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する
1. 著者名 吉田早悠里	4. 巻 3
2. 論文標題 F.J. ビーバー資料群の活用に向けたアーカイヴス構築：ウィーンに所在する20世紀初頭エチオピア南西部カファ地方に関する資料をめぐって	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 HERITEX	6. 最初と最後の頁 259-269
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 吉田早悠里	4. 巻 13
2. 論文標題 F.J. ビーバーの絵葉書：1904年、1905年、1909年のエチオピア訪問	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 アルケイア 記録・情報・歴史	6. 最初と最後の頁 17-55
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 吉田早悠里	4. 巻 10
2. 論文標題 アーカイブズを通じた出会い	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 南山カーカイズニュース	6. 最初と最後の頁 6-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 吉田早悠里	4. 巻 3
2. 論文標題 文化遺産としてのアーカイブス	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 人類文化遺産テキスト学研究センター ニュースレター	6. 最初と最後の頁 4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計9件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 4件)

1. 発表者名 吉田早悠里
2. 発表標題 F.J. ビーバー資料群のアーカイブズ構築: 課題と展望
3. 学会等名 日本アフリカ学会第56回学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yoshida Sayuri
2. 発表標題 Establishing digital archives of the F. J. Bieber collections and the future impact on the Kafa people in Ethiopia
3. 学会等名 Workshop "Anthropology in digital research ecosystem: the needs of anthropologists for data management and digital archiving", Austrian Centre for Digital Humanities (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yoshida Sayuri
2. 発表標題 The collection of F.J.Bieber and Kafa society at the beginning of the 20th century
3. 学会等名 20th International Conference of Ethiopian Studies (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yoshida Sayuri
2. 発表標題 Friedrich Julius Bieber and the Kafa in Southwest Ethiopia
3. 学会等名 Oesterreichisch-Aethiopische Gesellschaft Integration Event AES_V9 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 吉田早悠里
2. 発表標題 絵葉書に描かれた20世紀初頭エチオピア：F.J. ビーバーの絵葉書コレクションを通して
3. 学会等名 日本アフリカ学会第55回学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 吉田早悠里
2. 発表標題 20世紀初頭エチオピア民族誌的資料のアーカイヴス構築
3. 学会等名 日本アフリカ学会第54回学術大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Yoshida Sayuri
2. 発表標題 Archiving Viennese resources on the history of Ethiopian peoples
3. 学会等名 Archives as Cultural Heritage: Cases from Japan, Africa and Europe (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 吉田早悠里
2. 発表標題 無文字社会における歴史の再構築と外国人研究者の関与：エチオピア南西部カファ地方の事例から
3. 学会等名 中部人類学談話会242回例会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 吉田早悠里 , Trognitz Martina , 杉本豪 , Schopper Daniel , Stuhec Seta
2. 発表標題 ARCHEにおけるF.J. ビーバー絵葉書資料のデジタルデータ公開
3. 学会等名 日本ナイル・エチオピア学会第29回学術大会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 編：神本 秀爾、岡本 圭史、分担執筆：吉田早悠里	4. 発行年 2020年
2. 出版社 集広舎	5. 総ページ数 312
3. 書名 『マルチグラフト：人類学的感性を移植する』（「記述された歴史を語り伝える：外国人による歴史記述の活用」）	

1. 著者名 Friedrich Julius Bieber	4. 発行年 2021年
2. 出版社 LIT Verlag	5. 総ページ数 627
3. 書名 Reisen nach Aethiopien: Tagebuecher 1904, 1905, 1909 (Hg. Sayuri Yoshida)	

1. 著者名 Yoshida Sayuri	4. 発行年 2021年
2. 出版社 LIT Verlag	5. 総ページ数 575
3. 書名 Greetings from the Austrian-Hungarian Monarchy, the Ethiopian Empire and Beyond: The Picture Postcards of Friedrich Julius Bieber (1873-1924) / Gruesse aus der Oesterreichisch-Ungarischen Monarchie, dem Kaiserreich Aethiopien und Anderswo: Die Ansichtskarten von Friedrich Julius Bieber (1873-1924)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	ビーバー クラウス  (Bieber Klaus)		
研究協力者	杉本 豪  (Sugimoto Go)	オーストリア科学アカデミー・デジタル人文学センター	
研究協力者	トログニッツ マルティーナ  (Trognitz Martina)	オーストリア科学アカデミー・デジタル人文学センター	



6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	シュッパー ダニエル  (Schopper Daniel)	オーストリア科学アカデミー・デジタル人文学センター	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
オーストリア	オーストリア科学アカデミー・デジタル人文学センター			